



令和2年7月豪雨で大規模な土砂崩れが起きた平国地区(昨年7月撮影)

— 防災特集 —

災害に備えて、 命を守る

大きな爪痕を残した「令和2年7月豪雨」
からもうすぐ1年が経過します。これからの
時期は台風接近の影響で大雨、洪水、暴風に
よる自然災害が発生しやすい季節です。
災害はいつ起こるか分かりません。昨年の
教訓を胸に、ふだんから自然災害について家
族や近所の人と話し合い、いざというときは
防災気象情報を活用するなど、早めの防災行
動をとるようにしましょう。

毎年のように発生する 豪雨や台風

「令和2年7月豪雨」「令和元年東日本台風」「西日本豪雨」——。ここ数年、日本では大規模な豪雨災害が続いています。季節の変わり目には、梅雨前線や秋雨前線が停滞し、たびたび大雨を降らせます。これからは夏から秋にかけて日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風などをもたらします。特に傾斜の急な山や川が多い日本では、がけ崩れや土石流、川の氾濫などが発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が毎年のように発生しています。

昨年発生した「令和2年7月豪雨」では、熊本県南地域を中心に記録的な大雨となり、全国で死者84人、行方不明者2人の人的被害、約1万8千棟の住家被害が発生するなど甚大な被害となりました。県内初となる大雨特別警報が本町にも発令され、住家4棟が全壊、3人の尊い命が犠牲となりました。

自分の命は自分で守る 早めの防災行動を

災害から命を守るためには、普段から災害の備えをしておくことや、危険を感じたら自ら避難するなど、早めの防災行動が大切です。

気象庁では、大雨や台風などの防災気象情報を随時提供しています。命に危険が及ぶおそれがあるときは、数日前から「警報級の可能性」や「気象情報」を発表していますので、これらの情報に注意してください。

町では「大雨・洪水警報」や「土砂災害警戒情報」などを受け、ハザードマップなどを基づく危険な区域の住民に高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保を発令しますのですぐに避難してください。避難場所までの移動がcaえて命に危険を及ぼす場合は自宅の2階以上へ、がけや沢から移動してください。河川や農業用水が増水した様子を確認するのは危険ですので絶対にやめましょう。

■津奈木町の被害・支援状況（3月31日時点）

被害	件数
人的被害	死者3人
住宅被害	全壊4件、大規模半壊1件、半壊10件、準半壊12件、一部損壊77件
公共施設被害	5件
町道被害	34路線60件
農道等被害	農道20件 農地174件 頭首工11件
河川被害	22河川132件
公共土木被害	192件（7億142万円）
農林水産業被害	302件（25億5,551万円）

支援	金額
義援金	944万4,321円
ふるさと納税(令和2年度実績) ※災害支援寄付のみ。	1,672万3,125円

このほかにも、各自治体や団体、ボランティアの皆さんからさまざまな形で支援をいただきました。本町は今後も早期復旧・復興を目指して全力で取り組みます。